

### 3.2 マルチンゲールの表現定理

2乗可積分な  $(\mathcal{F}_t)$ -マルチンゲールはブラウン運動を使って表すことができる。このことを見ていこう。

定理 3.9  $M(t)$  を 2乗可積分なマルチンゲールとする。このとき、

$$\langle M \rangle(t) = t$$

が任意の  $t \geq 0$  で成り立つならば、 $M(t)$  は  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動である。

証明  $t > s \geq 0$  のとき

$$E\left(e^{ia(M(t)-M(s))} \mid \mathcal{F}_s\right) = e^{-\frac{a^2}{2}(t-s)}$$

を示せば十分。左辺を  $s$  を止め  $t$  の関数と見て  $\phi_a(t)$  とかく。伊藤の公式から

$$e^{iaM(t)} = e^{iaM(s)} + ia \int_s^t e^{iaM(u)} dM(u) - \frac{a^2}{2} e^{iaM(u)} d\langle M \rangle(u)$$

となる。 $e^{iaM(s)}$  で両辺を割った後、両辺の  $\mathcal{F}_s$  での条件付き期待値をとると  $\langle M \rangle(u) = u$  であることから

$$\phi_a(t) = \phi_a(s) - \frac{a^2}{2} \int_s^t \phi_a(u) du$$

となり、初期条件  $\phi_a(s) = 1$  の下でこれを解いて

$$\phi_a(t) = e^{-\frac{a^2}{2}(t-s)}.$$

□

例 3.1 (i)  $B(t)$  を  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動とすると、 $X(t) = \int_0^t \text{sgn}(B(s)) dB(s)$  は  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動。実際、

$$\langle X \rangle(t) = \int_0^t (\text{sgn}(Bs))^2 ds = t \quad a.s.$$

だから、定理 3.9 により  $X(t)$  は  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動である。

(ii)  $B_1(t), \dots, B_k(t)$  を独立な  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動とするとき,

$$\rho(t) = \sqrt{B_1(t)^2 + \dots + B_k(t)^2}, \quad X(t) := \sum_{j=1}^k \int_0^t \frac{B_j(s)dB_j(s)}{\rho(s)}$$

と置く.  $X(t)$  が  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動であることを見よう.  $X(t)^2$  に伊藤の公式を使う. 記号として

$$X_j(t) = \int_0^t \frac{B_j(s)dB_j(s)}{\rho(s)} \quad 1 \leq j \leq k$$

として, これを

$$X_j(t) = \sum_{i=1}^k \int_0^t a_{ji}(s)dB_i(s)$$

と書くと,

$$a_{ji}(s) = \delta_{ji} \frac{B_j(s)}{\rho(s)}$$

となっている.  $f(x_1, \dots, x_k) = \sqrt{x_1^2 + \dots + x_k^2}$  に対して伊藤の公式を使うと,

$$X(t)^2 = 2 \int_0^t \sum_{i,j=1}^k \int_0^s a_{j,i}(u)dB_i(u) \frac{B_j(s)}{\rho(s)}dB_j(s) + \int_0^t \sum_{j=1}^k a_{jj}(s)^2 ds$$

右辺第 1 項はマルチンゲール, 第 2 項は  $t$  になり,  $\langle X \rangle(t) = t$  だから, 定理 3.9 により  $X(t)$  は  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動である.

定理 3.10 (マルチンゲールの表現定理)  $B(t)$  を  $(\mathcal{F}_t)$ -Brown 運動とし,

$$\mathcal{F}_t^B := \sigma\{B(s); 0 \leq s \leq t\}$$

と置く.  $M_1(t), \dots, M_n(t)$  が任意の  $1 \leq i \leq n$  について  $M_i(0) = 0$  を満たす 2 乗可積分な  $(\mathcal{F}_t^B)$ -マルチンゲールならば, ある  $\Phi_i(s) \in \mathcal{L}^2(\mathcal{F}_t^B)$  がとれて,

$$M_i(t) = \int_0^t \Phi_i(s)dB(s) \quad 1 \leq i \leq n$$

と言う式が成り立つ. ただし,

$$\mathcal{L}^2(\mathcal{F}_t^B) := \left\{ \Phi; (\mathcal{F}_t^B) - \text{発展的} \text{可測}, E\left(\int_0^T \Phi(s)^2 ds\right) < \infty, T > 0 \right\}$$

とする.

証明はそれぞれの  $M_i(t)$  について言えれば良いので,  $n = 1$  の場合を示せば十分. 補題を二つ用意する.

補題 3.11  $X(t)$  が  $(\mathcal{F}_t)$ -適合で可積分な確率過程で  $X(0) = 0$  を満たすとする. 任意の  $T > 0$  に対して

$$\mathcal{S}_T := \{\tau; (\mathcal{F}_t)\text{-停止時刻}, \tau \leq T \text{ a.s.}\}$$

とおくとき, 任意の  $T > 0$  と任意の  $\tau \in \mathcal{S}_T$  に対して

$$E(X(\tau)) = 0$$

となるならば,  $X(t)$  は  $(\mathcal{F}_t)$ -マルチンゲール.

証明 任意の  $T > 0$  を与えて,  $\tau, \sigma \in \mathcal{S}_T$  が  $\tau \geq \sigma$  a.s. となるとき,  $E(X(\tau)|\mathcal{F}_\sigma) = X(\sigma)$ , つまり任意の  $A \in \mathcal{F}_\sigma$  に対して

$$E(X(\tau)1_A) = E(X(\sigma)1_A)$$

を示せば十分 (定数時刻は停止時刻).  $A \in \mathcal{F}_\sigma$  を任意の一つとる.

$$\sigma_A(\omega) = \begin{cases} \sigma(\omega) & \omega \in A \text{ のとき,} \\ T & \omega \notin A \text{ のとき,} \end{cases}$$

$$\tau_A(\omega) = \begin{cases} \tau(\omega) & \omega \in A \text{ のとき,} \\ T & \omega \notin A \text{ のとき,} \end{cases}$$

と置くと  $\sigma_A, \tau_A \in \mathcal{S}_T$  である. 実際,  $\sigma_A, \tau_A \leq T$  は作り方から明らかで,  $t < T$  のとき  $\tau \geq \sigma$  a.s. なので

$$\{\tau_A \leq t\} = A \cap \{\tau \leq t\} \in \mathcal{F}_t$$

が  $A \in \mathcal{F}_\sigma \subset \mathcal{F}_\tau$  からわかる.  $\{\sigma_A \leq t\} \in \mathcal{F}_t$  も同様にわかるので,  $\sigma_A, \tau_A \in \mathcal{S}_T$  がわかる. 仮定により, このとき

$$E(X(\tau_A)) = E(X(\sigma_A)) = 0$$

両辺を定義にしたがって書き換えると,

$$E(X(T)1_{A^c}) + E(X(\tau)1_A) = E(X(T)1_{A^c}) + E(X(\sigma)1_A)$$

これより，求める式が得られる．  $\square$

$$\mathcal{N} = \left\{ \int_0^t \Phi(s) dB(s); \Phi \in \mathcal{L}^2(\mathcal{F}_t^B) \right\}$$

と書くことにする．

補題 3.12 任意の  $T \geq 0$  を固定するとき， $\{M(s); 0 \leq s \leq T\}$  が有界な  $(\mathcal{F}_t^B)$ -マルチンゲールで，任意の  $N \in \mathcal{N}$  に対して

$$\langle M, N \rangle(s) = 0 \quad a.s.$$

が任意の  $0 \leq s \leq t (\leq T)$  で成り立つならば， $M(s) = 0, a.s., 0 \leq s \leq t$  となる．

最初に， $M(t) = 0, a.s.$  ならば  $M^2(s)$  は劣マルチンゲールだから，

$$E(M(s)^2) \leq E(M(t)^2) = 0$$

となり， $M(s) = 0, a.s.$  が  $0 \leq s \leq t$  で成り立つことに注意する．定数  $K > 0$  を  $|M(t)| \leq K$  が  $a.s.$  で成り立つようにとる．

$$H(\omega) = 1 + \frac{M(t, \omega)}{2K}$$

と置くと，これは正の値を取り，有界である． $A \in \mathcal{F}_t^B$  のとき，

$$P_H(A) = E(H1_A)$$

という式で新しい確率  $P_H$  を定義すると， $N \in \mathcal{N}, \sigma \in \mathcal{S}_t$  ならば，

$$\begin{aligned} E_H(N(\sigma)) &= E(N(\sigma)H) = E(N(\sigma)E(H | \mathcal{F}_\sigma)) \\ &= E\left(N(\sigma)E\left(1 + \frac{M(t)}{2K} \middle| \mathcal{F}_\sigma\right)\right) \\ &= E(N(\sigma)) + \frac{1}{2K}E(N(\sigma)M(\sigma)) = 0 \end{aligned}$$

最後の等式は  $\langle M, N \rangle(t) = 0 \quad a.s.$  による．したがって補題 3.11 により  $N$  は  $P_H$  でみて  $(\mathcal{F}_t^B)$ -マルチンゲールである．特に， $B(t), B(t)^2 - t$  は  $P_H$  で見て  $(\mathcal{F}_t^B)$ -マルチンゲール．これは  $P_H$  で見ても  $\langle B \rangle(t) = t$  であることを言っている．したがって定理 3.9 により， $B(t)$  は  $P_H$  で見ても  $(\mathcal{F}_t^B)$ -Brown

運動 . つまり ,  $a_i < b_i$  を  $1 \leq i \leq n$  について与えたとき ,  $0 < s_1 < \dots < s_n$  のとき

$$P_H(B(s_1) \in [a_1, b_1], \dots, B(s_n) \in [a_n, b_n]) = P(B(s_1) \in [a_1, b_1], \dots, B(s_n) \in [a_n, b_n])$$

を意味するが , これは

$$P_H(A) = P(A) \quad \forall A \in \mathcal{F}_t^B$$

を意味している<sup>1</sup> .  $P_H$  の定義に戻ると ,

$$P_H(A) = P(A) + \frac{1}{2K} E(M(t)1_A)$$

で , これが  $P(A)$  に等しいので ,

$$0 = E(M(t)1_A) = \int_A M(t)P(d\omega)$$

が任意の  $A \in \mathcal{F}_t^B$  に対して成り立つ .  $M(t)$  は  $\mathcal{F}_t^B$ -可測なので , これは  $M(t) = 0$  a.s. を意味する .  $\square$

この結果は 2 乗可積分なマルチンゲールにまで拡張できる事が知られている .

---

<sup>1</sup>単調族定理による .